

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	I Le 埼玉 ファム			
○保護者評価実施期間	令和8年 2月16日		～	令和8年 3月 10日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	15名	(回答者数)	11名
○従業者評価実施期間	令和8年 2月 24日		～	令和8年 3月 10日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数)	4名
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月 16日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	医療連携を通じて医療の提供を行い、医療的ケア児を受け入れている。 車椅子やバギーの利用を想定した設備を整えている。	訪問看護との連携により、平日は定期的に看護師が訪問、週5日安定した医療的ケアを提供している。 スロープや車椅子対応のトイレ、専用の福祉車輛を設置し、バリアフリー環境を徹底している。	複数の訪問看護ステーションと契約することで、柔軟かつ途切れない医療的ケアを提供している。
2	常駐する理学療法士が在籍し、個別のリハビリ支援を提供している。	理学療法士が一人ひとりに合わせたリハビリ訓練を行い、その都度評価を実施している。	個別のリハビリ計画書を作成し、定期的に保護者と共有・フィードバックすることで、児童一人ひとりの成長や目標を丁寧に支援していく。
3	保護者との信頼関係を大切にしている。	身体障がいや医療的ケアが必要な子どもも含め、健康や発達状況を日々保護者と共有し、共通認識を持てるようにしている。	頻繁なフィードバック機会を設けて、より密な情報共有を図っていく。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	利用者の特性上、個別対応が必須となるため、対応時間や支援の幅に制約が出ている。	利用者一人ひとりの特別なニーズに応じた支援が必要なため、結果的にスタッフの対応時間が限られてしまう。	業務の優先順位を整理したり、スタッフ間での役割分担を明確化。さらに日々の業務の中で効率化できるルーティンを確立して、定期的に業務プロセスを見直し、無駄を省く工夫を続けていく。
2	地域との交流機会が少ない。	地域と接点を持つ機会が限定的であり、継続的な交流につながりにくい。	地域住民を招待できる行事の実施を検討し、事業所の取り組みを知ってもらう機会を作ることで、地域とのつながりを広げていく。
3	保護者同士が交流できる機会が少なく、つながり作りの場が限定的となっている。	保護者同士が自然に関われる機会や場の設定が十分でなく、交流のきっかけが限られている。	保護者同士が安心して交流できる場の提供を検討し、つながりを深められるよう支援していく。